

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

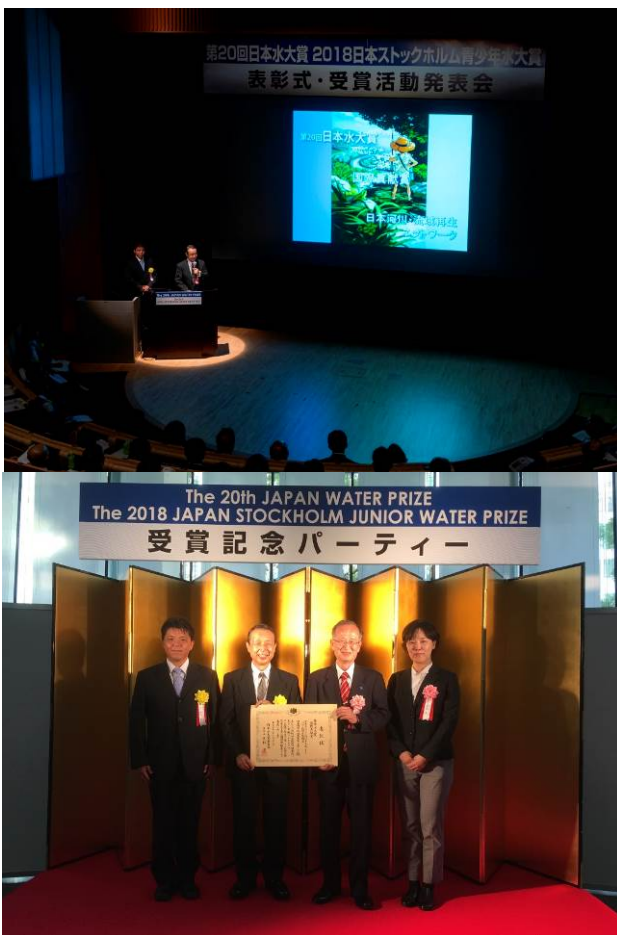
目次

Pages

➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	5
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	13

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

第 20 回日本水大賞「国際貢献賞」受賞のご報告



2006年11月の日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)の設立以降、JRRNが国内外の川づくりの担い手の皆さまと共に取組んで参りました河川再生に関わる国内外の情報共有と人材交流活動に対し、この度「日本及びアジアの河川再生の担い手をつなぐ協働基盤構築」として第20回日本水大賞の「国際貢献賞」の栄誉に浴することが出来ました。これも偏に皆様方との協働の賜物と感謝申し上げます。2018年6月26日(火)に表彰式及び受賞団体発表会が開催されました。

JRRNが目標とする河川再生の協働基盤構築に向けては、活動の主役はあくまで河川再生を担う国内外の活動主体であり、その主体を横断的に繋ぎ、後方支援し、それぞれの知見を共有しながら諸活動の更なる推進と最適化を図るというネットワーク本来の『触媒的機能』を常に意識して諸活動に取組んで参りました。中でも、河川再生に向けた新たな行動を起こす人材を増やし育成することや、アジアに向けては、毎年開催する国際フォーラムや海外視察団の受入支援を通じて日本が培った経験を普及し、国内では、河川再生に関わる情報共有ツール(ホームページ、刊行物)の整備や産官学民を交えた講演会や研修行事等を継続的に開催してきました。

これまでJRRNが取組んできたあらゆる活動は、川づくりに関わる地域の担い手、国内外の専門家、河川を管理する行政関係者等のたくさんの方々のご支援により成立ってきたものであり、この度の「国際貢献賞」の受賞は、JRRN設立準備期間を含む約15年間に渡り共に協働してきた皆様と一緒に受賞したものです。

この第20回日本水大賞「国際貢献賞」の受賞を更なる励みとして、今後も国内活動と国際貢献を有機的に連動させながら、地域が主体となる持続可能な河川の管理に資する諸活動を後押し、その担い手を育成するための知見や技術の汎用化とその普及に努めてまいります。

また、河川再生に関わるアジアのネットワーク活動のハブ機能をJRRNが担い、日本の河川再生の成功や失敗経験を謙虚に海外に伝承しながら、川づくりを通じてアジア諸国との更なる友好関係の構築に貢献していきたいと考えております。

今後とも、JRRNへのご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

JRRN 事務局一同

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2018 応募写真集」発行のご案内とお礼

JRRN では、水辺の美しさや人々との関わりについて考えるきっかけづくりを目指して、『桜のある水辺風景 2018』と題し、桜のある水辺の風景写真とメッセージについて、今年の3月から募集を行ってまいりました。5月末までの募集期間内に、26名の方々より、44作品(49点)の素敵な写真をご応募頂きました。誠にありがとうございました。

この度、ご応募頂いた全ての写真を「桜のある水辺風景 2018 応募写真集」としてとりまとめ、ホームページ上でPDFデータとして公開しましたので、是非ご覧ください。リンクをたどっていただければ、過去の写真集により作品を確認することが出来ます。

また、Facebook ページでは、全ての投稿作品を個別に閲覧することが可能です。こちらも併せてご覧ください。

◆公開先ホームページ URL :

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/230>

※両面印刷でのプリントアウトを想定し、白紙ページも含まれていますので、予めご承知おきください。

◆Facebook ページ URL :

<https://www.facebook.com/sakuramizube/>

来年は、本企画開始から10周年の記念すべき年となります。今年ご応募頂いた皆様も、応募を見送った皆様も、是非ぜひご参加ください。

ご意見やご感想、ご要望など、お気づきの点があれば事務局まで気軽にメールをお願いします。今後の参考とさせていただきます。

(JRRN 事務局・阿部充)

桜のある水辺風景 2018 応募写真集



日本河川・流域再生ネットワーク

「桜のある水辺風景 2018 応募写真集」表紙

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー 平成 30 年度の活動企画のご案内

「小さな自然再生」サミット（仮称） 開催決定！（2019年1月26日（土）@神戸）

※詳細は改めて皆様にご案内します。全国の小さな自然再生の担い手が集う機会をお楽しみに・・・

JRRN では、多様な主体が協働し日曜大工的に自然環境の保全・再生に取り組む「小さな自然再生」の技術と英知を高め、当分野に取り組む人材の育成を図ること、各地域に相応しい新たな取組を活性化させることを目的とした普及促進活動を継続的に実施しています。今年度も引き続き、（公財）河川財団の河川基金の助成をいただくことができ、「小さな自然再生」の普及促進、人材育成を目的とした、次の取組を企画しています。

1. 「小さな自然再生」の事例収集

全国の「小さな自然再生」の担い手の協力を得て事例を収集し、活動目的や実施体制、施工内容などを整理します。

2. 収集事例の評価・分析及び共有方法の検討

収集整理した事例に基づき、「小さな自然再生」の全国的な広がりや評価し、新たに活動を始めようと考えている人の参考となる取組のポイントを分析するとともに、その成果を事例情報と共に共有する仕組み（データベース）を検討します。

3. 「小さな自然再生」データベースの制作・普及

データベースを制作し、水辺の小さな自然再生ホームページを活用し普及します。

4. 「小さな自然再生」サミットの開催

全国の「小さな自然再生」の活動主体によるサミット（交流会）を開催し、事例データベースを含む活動成果を普及するとともに、「小さな自然再生」の人材育成や技術向上の課題と方策について討議し、今後の活動の方向性を共有します。

合わせて、「小さな自然再生」自由集会（応用生態工学会：9/21～24 @東京工業大学）にも貢献し、自由集会での議論がサミットに十分活かされるよう努めて参ります。

【開催時期】

9月 「小さな自然再生」自由集会@応用生態工学会東京大会（現在申請中）

1月26日（土） 「小さな自然再生」サミット（神戸）

5. 「小さな自然再生」現地研修会の開催

「小さな自然再生」現地研修会を継続開催します。今年度の助成事業としては、サミットの開催やデータベース制作に注力しますが、研修会を共催する団体側で費用（旅費、会場費、機材費等）を負担可能、かつ開催に際し主体的に準備～運営までの協働を頂ける場合に積極的に開催して参ります。

- 回数：未定
- 内容：座学+ワークショップ（河川管理者と連携し、本分野有識者による基礎講習、現場視察、及び室内演習 or 現場実技を想定）
- 開催地：小さな自然再生を既に実施している現場 or これから取り組む予定の現場

今年度は、「小さな自然再生」の普及促進活動の5年の節目として、これまでの取組みをレビューするとともに、今後の活動の方向性を定める1年にしたいと考え、サミットの開催やデータベース制作などの新たな企画を立ち上げ、「小さな自然再生」研究会メンバーとともに調整を進めています。

「小さな自然再生」の普及促進活動の5年間の歩み

年度	主な成果
H26	「小さな自然再生」座談会開催 「小さな自然再生」事例集発行
H27	第1回現地研修会@豊田 開催 「小さな自然再生」自由集会Ⅳ 開催 第2回現地研修会@滋賀 開催 「小さな自然再生」ホームページ公開
H28	第3回現地研修会@福岡 開催 「小さな自然再生」自由集会Ⅴ 開催 第4回現地研修会@兵庫 開催 第5回現地研修会@千葉 開催 「小さな自然再生」リーフレット発行
H29	第6回現地研修会@福井 開催 第7回現地研修会@岡山 開催 第8回現地研修会@秋田 開催 「小さな自然再生」普及啓発動画公開
H30 (予定)	「小さな自然再生」自由集会Ⅵ 開催予定 「小さな自然再生」サミット 開催予定 現地研修会の継続開催予定 「小さな自然再生」データベース公開予定

活動の経過報告は、本ニュースレターや JRRN/「小さな自然再生」ホームページ等を通じて皆様にご案内させていただきますので、ご支援とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

JRRN 事務局からのお知らせ (5) JRRN Activity Report

「平成 30 年度第 1 回 JRRN 理事会」開催報告 及び「年次報告 2017」発行案内

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)の『平成 30 年度第 1 回理事会』が 6 月 1 日 (金) に開催され、全議案が承認されました。

1. 開催日時 :
2018 年 6 月 1 日 (金) 16:00-17:30
2. 開催場所 :
(公財) リバーフロント研究所 会議室
3. 理事総数 :
4 名 (1 名は JRRN 定款第 26 条に基づく書面表决)
4. 議案 :
議案第 1 号 平成 29 年度 事業報告及び収支決算
議案第 2 号 平成 30 年度 事業計画及び収支予算
議案第 3 号 事務局の組織及び運営
議案第 4 号 その他運営に関する重要事項
(事務局の自立化について)

JRRN 設立から 12 年目となる本年は、これまでの国内外活動での経験を礎に、日本及びアジアの豊かな河川環境の実現に益々貢献していけるよう、国内外の川づくりの担い手との協働活動を推進するとともに、持続的な活動の展開を目指し、JRRN の NPO 法人化に向けた検討に着手することなどが決まりました。

※「事業報告及び収支決算」「事業計画及び収支予算」は以下のページよりご覧頂けます。

<http://www.a-rr.net/jp/about/establish.html>



また、理事会における平成 29 年度事業報告の承認を受け、JRRN の昨年度 (2017 年 4 月～2018 年 3 月) の活動を取りまとめた「平成 29 年度事業報告書」が完成し公開致しました。(全 4 ページ)

平成 29 年度は、河川再生に関わる情報共有基盤の整備としてホームページや facebook の運営及びニュースメールやニュースレターの配信、河川再生の普及・啓発に向けた行事等の開催、また水辺の小さな自然再生に関わる調査研究と成果の積極的な普及、更に国内外関係団体の活動支援や協働活動などに取り組みました。また、会員に関しては、団体会員は 1 減の 59 団体、個人会員は 23 増の 772 人となりました。

平成 30 年度も、これまでの国内外の地道な取組みを更に発展させ、川づくりの担い手に役立つ価値を生み出し普及して参りますので、引き続きご支援とご協力をよろしく願いいたします。

※事業報告書 (年次報告) のダウンロードはこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/annual/>



理事会の様子

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 会員寄稿 (1) JRRN Member Contribution

長崎県東彼杵町「水辺からの町おこしプロジェクト」2018年春

寄稿者：筑波大学白川ゼミ かわまちプロジェクトチーム (JRRN 団体会員)

1. はじめに

昨年度に引き続き、筑波大学白川ゼミのかわまちプロジェクトチームのメンバーが2018年5月26日(金)から28日(日)に長崎県東彼杵町を訪問した。彼杵おもしろ河川団の活動の一環として行われた学校林の管理、アユの遡上実験、ドジョウ養殖の経過調査に参加した。遡上実験およびドジョウ養殖は昨年度から引き続き行っているが、学校林の管理は今回が初めての活動となる。

26日の午後に現地に入り、大村湾の海岸でシュノーケルの体験をした。27日の午前中に彼杵小学校の学校林において間伐材の運び出しおよびどんぐり苗の植林、午後は串川においてアユのハミ跡調査を行い、傾斜板の下流側に魚を放流した。夜は関係者が集まり、今後の活動方針を決める作戦会議を開いた。28日の午前中は、遡上実験の結果を確認するとともに、養殖場でドジョウの個体数と体長を計測した。27日の活動は西九州大学短期大学部の津上ゼミのみなさんと一緒にいった。

2. 学校林の管理

学校林とは、小学校、中学校、高等学校等において、学校の基本財産形成や児童・生徒への環境に関する教育、体験活動を目的に、学校が保有している森林のことである。平成28年現在で約2500校の学校が学校林を保有しており(「学校林現況調査報告書」公益社団法人国土緑化推進機構)、彼杵小学校もその一つである。従来はその木材を用いて学校の建物の修理等を行っていた。しかし、近年ではその需要が減り、また学校から離れたところにあるため、本来必要な間伐が行われていない状況にある。そこでおもしろ河川団では、学校林の間伐を行い、間伐材は町の図書館にあるまきストーブで燃料として使うことで有効活用することを考えた。また、間伐するだけでなく新たに植林を行うことで林のサイクルが保たれるため、植林も行った。

今回は学校林から間伐材を運び出す作業を行った。車で山の途中まで行き、そこから徒歩で向かった。学校林の入り口までの道にはロープが木々の間に張られていたが、下は元々舗装されておらず、当日の朝まで雨が降っていたため、道がぬかるんでいた。10分ほど歩くと、今まで通ってきた道とは異なり、木々の間隔が広く、林床にも光が届いている、比較的整備された学校林に到着した(図1)。



図1 学校林の様子



図2 植林の様子



図3 尾根の上にある学校林の看板



図4 図書館に運ばれた間伐材

前日までに伐採されていた間伐木をおもしろ河川団のメンバーで運んだ。最初は一人一本の木を持って運んでいたが、思ったよりも重く、足元も徐々に悪くなってきたため、途中からリレー方式に切り替え、運び出した。

木材を運び出した後、森林に詳しい方の指導の元、どんぐりの木の植樹を行った(図2)。現在は針葉樹が目立つ学校林だが、今後どんぐりの木など、根をしっかりとる広葉樹に植え替えることで、より保水力をもった森に変えていくことを目指している。

彼杵小学校林は1.34haととても広い。私たちが主に活動していたのは学校林の入り口でしかなく、敷地は尾根まで広がっていた。10分ほど傾斜のきつい坂道を登ると、看板が立っていた(図3)。山の上は下に比べて手入れが行き届いていないのか、シダ植物が多く見られた。また上の方の木を伐採して運び出すにはかなりの労力がかかる。今後整備していくにあたって、より効率的な運び方を考える必要があると感じた。

運び出した木材をトラックに積み、町の図書館に運んだ(図4)。一度図書館の外に木材を置いて乾燥させてから、図書館の薪ストーブに使用される。トラックから木材を下ろしてみると30本ほどで、大人数であれだけ長い時間頑張ったのにこれだけかと正直残念であった。課題はまだ存在するが、この試みが東彼杵から全国に発信していけば良いなと感じた。

3. アユの遡上実験

串川は横断工作物のため河道内に段差があり、アユの遡上が阻害されている。そこで魚道設置の工事をせずとも簡単にアユを遡上させる方法として、傾斜板を設置した実験を行ってきた。今回は前回よりも傾斜を緩くし、傾斜板の周りに張った網の中に入れた魚が一晩で傾斜板を登るか実験を行った。

まず、実験に使う傾斜板の準備、堰上のハミ跡探しをしていた。朝までの雨で串川の水量は多かった。



図5 傾斜板下に網設置の様子



図6 網設置後の傾斜板の様子

設置する前に、すでに堰上に自力で遡上したアユがいるのか、石についたハミ跡があるかどうか調査した。だが、ハミ跡は見つからなかった。

傾斜板は高さ1m30cmほどある堰の下に1ヶ月以上前から取り付けられていた。傾斜板の下に網を張り、その周りに板や石などを置いて隙間を埋めていき、その中に実験に使用する魚を放った(図5)。魚が遡上したか確認するため、傾斜板の上に定置網を設置した。最後に傾斜板を録画できるような定点カメラを2台設置し、翌日まで観察を行った(図6)。

その翌日、実験道具の回収に向かった。雨の影響で増していた水高が落ち着いたことと、上に設置した網を固定するためのポールに水があたっていたことから、傾斜板に水が流れにくくなっていった。堰上の網には何匹か魚がかかっていたが、元々上流にいた魚が入った可能性もあり、本当に傾斜板を利用して上ったものかわからなかった。

傾斜板を設置した際に放たれた魚を見る限り、遡上を試みる魚は何匹かいたものの、その多くは傾斜板の中ほどまでも届

かず戻ってしまっていた。また網の隙間に入ってしまったなかなか出てこない魚も多く、中には網から逃げ出してしまった魚もいた。傾斜板、網の設置方法などまだまだ改善の余地がありそうだ。

また空き時間に魚取りを行った。皆熱中してとっており、腰までつかるほど深いところまでいき、がさがさをしている人もいた。意外にもたくさんとれていて、中にはえび、カニ、ウナギもいた。やってみると本当に楽しいもので、夏の川遊び教室は児童だけでなく、大学生もかなり楽しめるだろうなと感じた。

4. ドジョウ養殖の経過調査

以前から休耕田でドジョウの養殖を行ってきた。逃げ出しが問題となっていたため網の設置などにより対策を行ってきた。今回はドジョウ育成をしている休耕田にて、ドジョウの成育確認を行った。

ドジョウを捕獲し、体長を測定することで成長を確認することにした。しかしながら、休耕田の中全てを調べることは難しい上に手間と時間もかかるため、以下の手法を用いて調査を行った。休耕田は普段は水が張ってあるが、収穫をしやすくするために、持ち主の方が水を抜いてくれた。休耕田の様子は、水がまだ溜まっている部分と完全に乾ききってひび割れが生じている部分、そして中間の泥のようになっている部分などが存在した。



図7 休耕田からドジョウを捕獲している様子



図8 捕獲したドジョウ（一部）

手順1：1m×1mの四角の枠を置いて、その範囲（コドラート）内に存在する土（泥）ごと大きな網ですくい上げ、バケツに入れた（図7）。水ありのところ3箇所、水なしのところ3箇所それぞれサンプルをとった。

手順2：バケツに入れたものの土や泥をもう一度網に入れてできるだけ泥を洗い流した。

手順3：泥をできるだけ洗い流した後、白いバットなどの入れ物に入れ、そこから手でドジョウを捕まえた。捕まえたドジョウは水を張った綺麗なバットに入れた（図8）。

手順4：捕まえたドジョウの長さを測り、そのドジョウが出てきたコドラートごとに匹数と一緒に記録した。

手順5：最後に休耕田の面積を計測し、コドラートの面積を休耕田全体の面積へと変換し、全体のドジョウ数を推測した。

予想していたよりも捕獲できたドジョウの数が少なかった。これは四角の枠内の泥を採取している時に水の流れによって逃げてしまっていたからだと思う。そのため、もう少し正確に測定できる方法を考えたいと感じた。また、今回捕獲できたドジョウは比較的体長の小さいものが多く、成長があまり見られなかったのは残念に感じた。また次回測定するときに成長した姿を観察できることを楽しみにしている。

5. おわりに

今回の訪問にあたり、東彼杵町役場の皆様、東彼杵清流会の池田健一さん、県北グリーンクラブの宮川弘さん、彼杵おもしろ河川団の皆様をはじめとしその他町内外の多くの方々にご協力いただきました。ここに記して感謝を申し上げます。

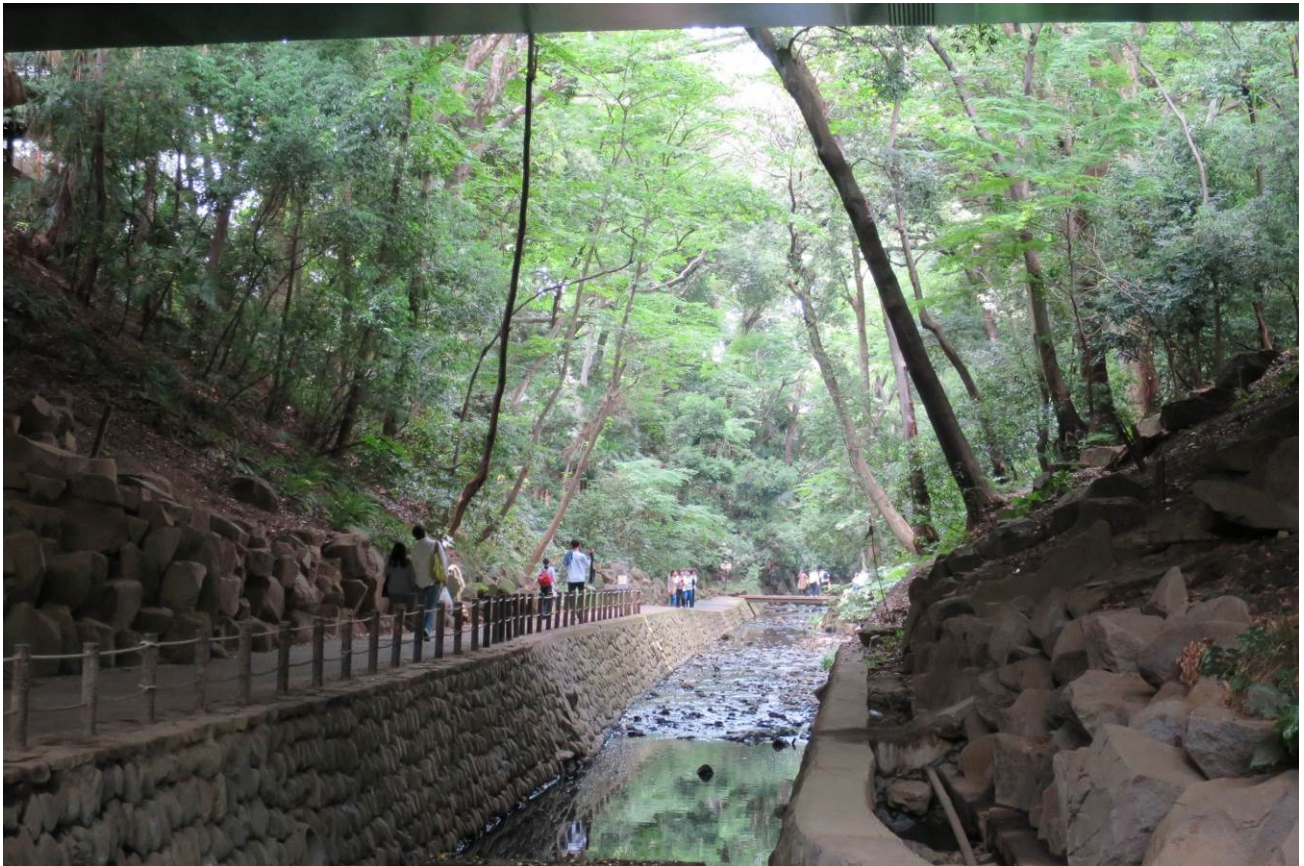
筑波大学白川ゼミ かわまちプロジェクト（訪問者）：
大泉達也・宮尋・岸田まりな・白川直樹

※『彼杵おもしろ河川団』ホームページはこちらから
→ <http://outdoor-life.link/>

水辺からのメッセージ No.110

岡村幸二 (JRRN 会員)

渓谷に入り込む：
世田谷の渓谷沿いの斜面地に 樹木が倒れかかるように茂る



撮影：2018年5月（東京都世田谷区・等々力渓谷）

◆東京 23 区で唯一の渓谷

武蔵野台地の南端に位置し等々力渓谷を流れる矢沢川は、世田谷区を多摩川に直接流れ込みます。渓谷区間では幹線道路の環八通りが一跨ぎしますが、ドライバーは渓谷の緑にきっと気が付かないでしょう。

◆地層から武蔵野台地の特徴を知る

等々力渓谷は台地を侵食して形成された開析谷であり、渓谷沿いを歩くと、武蔵野れき層、武蔵野粘土層、ローム層などが水平に堆積する地層断面がよく観察できます。所々に湧水も多く見られます。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

河川書の探求(3)

八田與一 台湾水利の父

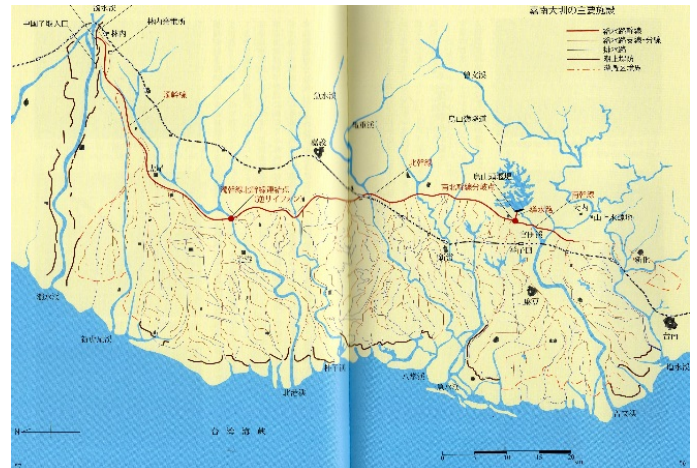
古賀邦雄 (古賀河川図書館・JRRN 会員)

1. 台湾の地形

台湾は「木の葉」の形をした島である。面積は 36,000km²、日本の九州とほぼ同じで、約 2,300 万人が暮らしている。総面積の約 70%が山地、残りの 30%が平地を占める。南北に中央山脈が走り、最高峰 3,952m の玉山(新高山)をはじめ、2,600m 以上の山々が連なっている。気候は高温多湿で雨が多く、風が強い。北部は亜熱帯気候、南部は熱帯気候で、平均気温は 22℃、平均年降水量は 2,200mm で比較的多い。

台湾の河川は、ほとんど山岳地帯の水源から西へ流れており、山間部から海までの距離が 100km に満たない。川は短く、険しく、直ぐに海へ流れ込み、商業的な舟運は発達しなかった。台湾では谷川のことを溪と表現されている。

河川は、中部を流れる全長 186.4km の濁水溪が一番長く、さらに南方の東港の町へ向かって流れる全長 160km の高堀川溪、台湾最大のダム曾文ダムを経て台湾海峡に下る全長 140km の曾文溪が流れているこの3つが台湾の代表的な河川といえる。



2. 八田與一・台湾水利施設の業績

技術者には国境がないことを身をもって示したのは、台湾総督府の土木技師であった八田與一であろう。今でも台湾の人々から敬愛されている。

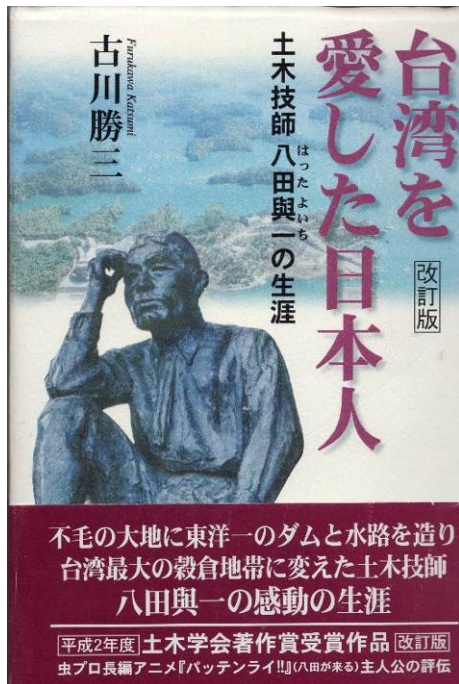
八田與一は、明治 19 年 2 月 21 日石川県河北郡今町村(現・金沢市今町)で生まれた。四高を経て、明治 42 年東京帝大工学部土木学科在学中に廣井勇教授の薫陶を受ける。卒業後台湾総督府土木局に勤め、大正 3 年浜野弥四郎のもとで衛生工事に従事、大正 5 年桃園の設計・監督を行う。大正 9 年嘉南平野に導水するための烏山頭ダムの建設に着工し、昭和 5 年このダムから導水する嘉南大圳農地開発事業を完成させた。

不毛の大地であった嘉南平野 15 万 ha が豊かな農地に一変させた。烏山頭ダムの他に八田與一が関わった水利施設には、日月潭の電源開発、台中を流れる大甲溪の電源開発、ポスト烏山頭ダムとしての曾文ダムに関わる調査・企画を行った。



現在の烏山頭ダム堰堤

3. 烏山頭ダムの建設



1935年8月、中華民国福建省へ旅行する前に、台北市幸町の自宅の庭で撮影した八田家の記念写真。前列右から妻外代樹、六女成子、與一、五女玲子、次女綾子、次男泰雄。後列右から四女嘉子、三女浩子、長女正子、長男晃夫(写真提供:深尾立氏)

八田與一が陣頭指揮をとった烏山頭ダム建設については、古川勝三著『台湾を愛した日本人』(創風社出版・2009年)、齊藤充功著『百年ダムを造った男－土木技師八田與一の生涯』(時事通信社・1997年)から追ってみる。

烏山頭ダム・水路による嘉南大圳の事業目的は、台南州における旱魃、排水不良に苦しみつつある看天田、蔗園の嘉南平野 15 万 ha に対し、灌漑用水の設備を施し、水稻、甘藷の農産物の増大を図る事であった。この水開発のため、水源を曾文溪及び濁水溪から求めた。先ず、曾文溪の水を官田溪で締切、堰堤の烏山頭ダムを築き、このダムには、烏山嶺を貫き、延長 3,800m の隧道と暗渠を通して、最大流量 50 m³/s を導水し、貯留する。また、濁水溪の水は、台南州六郡荊桐生の同溪護岸に取水口を設け、水路によって、そのまま利用する。



烏山頭ダムのほとりにある丘からダム湖を見下ろしている八田與一技師の銅像(都賀田勇馬作)。写真右奥にあるのは八田與一、外代樹夫妻の墓

この工事工程は、烏山頭ダムに貯水するため隧道工事と、濁水溪の導水工事を平行して進め、次いで烏山頭ダムの本体工事にかかり、最後に水田をまんべんなく導水するための給排水路工事を行った。4 工程に分れ、建設がなされた。

烏山頭ダムの諸元は、堰堤盛土の高さ 56m、堰堤頂部の長さ 1,273m、最大貯水容量 1 億 5 千万 m³、満水面積 6,000ha、堰堤付近水深 47m、型式はセミ・ハイドロリックフィル工法である。完成によって、嘉南平野 15 万 ha は、水稻、甘藷等の作物が大増産となった。

4. 八田與一の最後

烏山頭ダムの完成後八田與一は、福建省の灌漑事業調査、海南島の発電・水利事業調査、朝鮮・満州の主なダム視察を行った。昭和 17 年 5 月 8 日南方産業開発派遣隊の一員として、大洋丸に乗船中、東シナ海上にて、米潜水艦に撃沈され、殉職、56 歳であった。

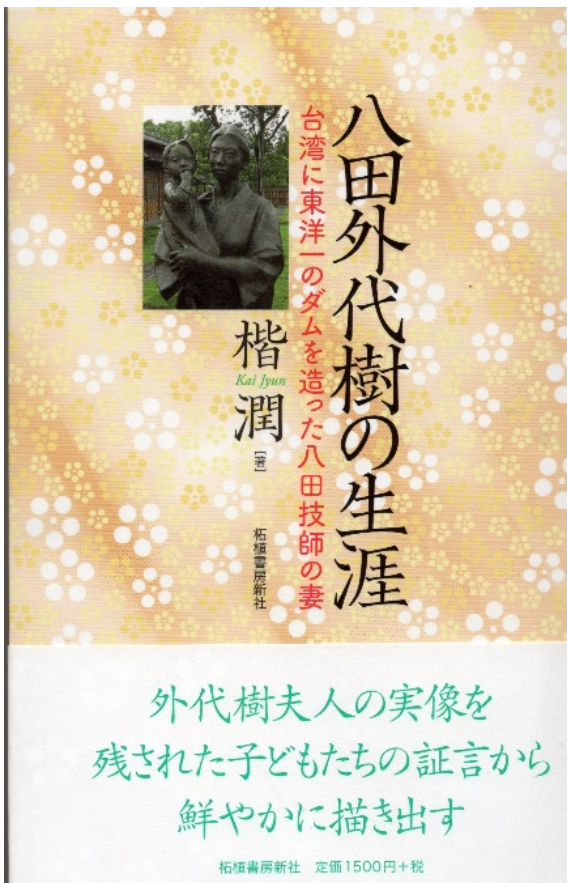
昭和 20 年 9 月 1 日妻外代樹は、烏山頭ダムの放水路に投身自殺、45 歳の生涯を閉じている。烏山頭ダムを見下ろす所に、台湾にとっては大恩人・台湾の水利システムを確立した八田與一の銅像が建立され、八田夫妻の墓もそばにあり静かに眠っている。

5. 八田與一の文献

八田與一に関する書を掲げる。

みやぞえ郁雄/まんが・平良隆久/シナリオ『まんが 八田與一 東洋一のダムを作った日本人』(小学館・2011年)、北國新聞社出版局編『回想の八田與一 家族やゆかりの人の証言でつづる』(北國新聞社・2016年)、權潤著『八田外代

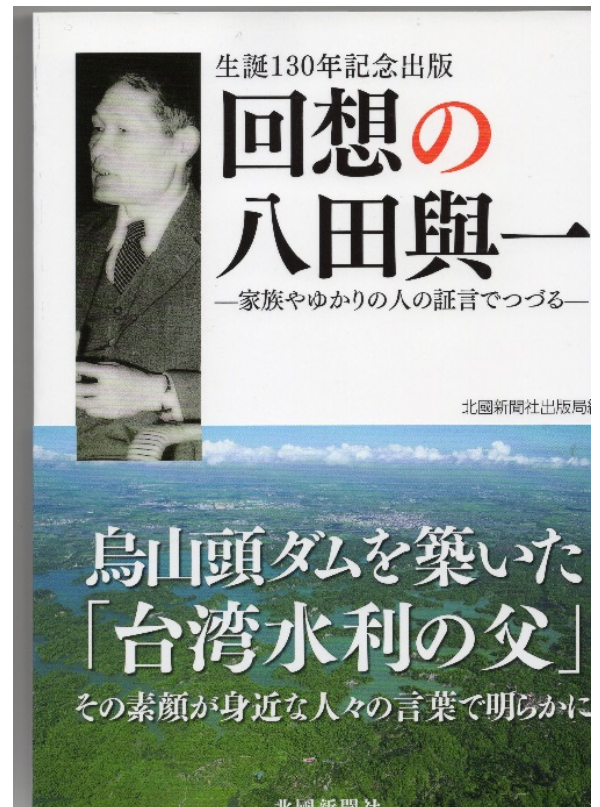
樹の生涯－台湾に東洋一のダムを造った八田技師の妻』(柘植書房新社・2017年)、それに、アニメーションDVD 石黒昇監督作品『パッテンライ!!八田與一』がある。



6. 台湾の水利書

八田與一以外に台湾の水利に尽くした日本人がいる。その書を挙げてみる。

平野久美子著『水の奇跡を呼んだ男－日本初の環境型(地下水)ダムを台湾につくった鳥居信平』(産経新聞出版局・平成21年)、上下水道を施工した、稲葉紀久雄著『都市の医師－浜野弥四郎の軌跡』(水道産業新聞社・1993年)、まどか出版局編・発行『日本人、台湾を拓く』(2013年)、湊照宏著『近代台湾の電力産業－植民地工業化と資本市場』(御茶ノ水書房・2011年)。





～あなたのおすすめの川、その見方・魅力を教えてください～

オンライン土木博物館・ドボ博新企画「川展（仮称）」に向けたアンケート協力をお願い

公益社団法人土木学会土木図書館ドボ博小委員会

公益社団法人土木学会は、2016年からオンライン土木博物館・ドボ博（www.dobohaku.com）を運営し、土木の世界や魅力を、社会に広く伝える活動を展開しています。

ドボ博では、「川」をテーマとした新たな企画展の準備を進めています。本企画展では、できるだけ川の魅力を多角的に示し、「いつものまちが博物館になる」というドボ博のキャッチフレーズのとおり、普段あたり前に見える風景が違って見えるような効果を生み出したいと考えております。その一環として、川の専門家や日頃から川に関心をお持ちの方々を対象としたアンケート調査を行い、その結果に基づく多分野の専門家で構成する番付編成会議を経て、マニアックな「川番付（仮称）」の制作を予定しています。

本企画展の準備にあたりまして、皆様には是非ともアンケートへのご協力をお願いいたします。回答に際しては、専門家としての公平な視点を重視していただいても結構ですし、川好きのお立場から、個人的な思い入れのある、マニアックな視点を全面に出していただけるとありがたく存じます。ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。（**回答期限：7/17（火）まで**）

アンケートの回答はこちらから



<https://questant.jp/q/dobohaku-river>

アンケートへのご回答は、

- ① 左記 QR コードより Web アンケートページにアクセス、
- ② 左記の URL より Web アンケートページに直接アクセス

のいずれかにてお願いいたします。

※企画に関するご意見・ご質問等については river@dobohaku.com までお願いいたします。

会議・イベント案内 (2018年7月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 巡回企画展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」

- 日時：2018年7月3日(火)～9月2日(日)
- 主催：名古屋市港防災センター、水の巡回展ネットワーク
- 場所：名古屋市港防災センター(愛知県名古屋市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2795.html>

■ 土木学会水工学委員会環境水理部会「H30 年度環境水理部会研究集会」

- 日時：2018年7月5日(木)～6(金)
- 主催：土木学会水工学委員会環境水理部会
- 場所：北見工業大学 第1総合研究棟(北海道北見市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2791.html>

■ 水文・水資源学会 30周年記念 学官民連携シンポジウム「BEYOND 2030 ー将来の水行政・水ビジネス・水研究ー」

- 日時：2018年7月23日(月) 13:00～17:45
- 主催：一般社団法人水文・水資源学会
- 場所：中央大学駿河台記念館(東京都千代田区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2797.html>

■ 成富兵庫茂安の竹で有明海の牡蠣礁を復活しよう!

- 日時：2018年7月28日(土) 12:30～18:00
- 主催：久保田まちづくり協議会 他
- 場所：佐賀有明海漁協久保田支所(佐賀県佐賀市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2789.html>

■ 2018年アユ漁体験と魚捕りイベント(全3回)

- 日時：2018年8月11日(土)、8月19日(日)、9月9日(日)
- 主催：NPO法人荒川流域ネットワーク
- 場所：都幾川、高麗川、越辺川(埼玉県内)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3135.html>

■ 第8回マザーレイクフォーラムびわこコミ会議 2018

- 日時：2018年8月26日(日) 10:00～16:30
- 主催：マザーレイクフォーラム運営委員会、滋賀県
- 場所：コラボしが21(滋賀県大津市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2771.html>

■ 第11回いい川・いい川づくりワークショップ

- 日時：2018年9月8日(土)～9(日)
- 主催：いい川・いい川づくり実行委員会
- 場所：帯広畜産大学(北海道帯広市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2793.html>

■ ワークショップ「土砂流動を考慮した河川計画について」

- 日時：2018年9月11日(火) 13:30-17:00
- 主催：土木学会水工学委員会
- 場所：主婦会館プラザエフ 7Fカトリア(東京都千代田区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2799.html>

書籍等の紹介 *Publications*

■ 水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？(2017.3発行)

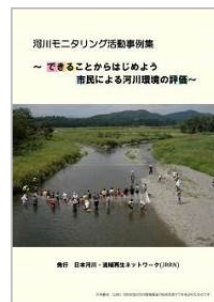
- ・発行：「小さな自然再生」研究会／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・発行年月：2017年3月
- ・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～(2014.3発行)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN会員限定)

Email: info@arr.net / 電話：03-6228-3862

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

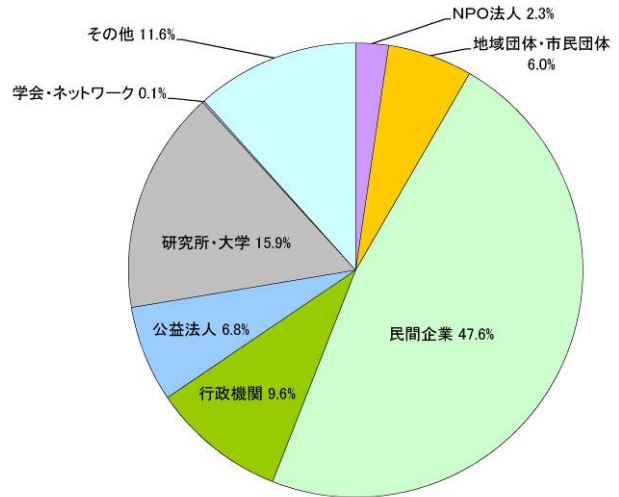
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2018年6月30日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：780名、団体会員数：60団体)
※6月の新規入会数：個人会員1、団体会員1

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN	JRRN	非会員 (一般)
	個人会員	団体会員	
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内
Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

